

NOTE BOOK

RECORDING FOR VALUABLE DAYS OF ALL

イチジクの
観察

60



五の五

矢口せき子

敬学会賞第十九回入選作品

MARUKYO'S HIKARI

CONTAINING BEST RULED FOOLSCAP
MARUKYO'S «HIKARI» NOTE



TOKYO

もくじ

(一) なせイチジクの研究をしたか ---- 1ページ

(二) イチジクを研究をするに当って ---- 1ページ

(三) 観察日記 ----- 2ページから
22ページまで

(四) まとめ ---- 23

① わかったこと ----- 23

② ふしぎに思ったこと ---- 24

③ はんせい ----- 24

④ これからのこと ---- 25

⑤ つかった本 --- 25

⑥ 辞典にあったこと --- 26~27

初め

(一) なぜイチジクの研究をしたか

わたくしは四年生の時「かきの実」の研究をしました。

ちょうど柿がいろづいてくる時をすしたので、思ったような

観察はできませんでした。その時のことを はんせいしたり

ヒントをえたりして、このたびは「イチジク」をえらびました。

えらんだ理由は「イチジク」はふしぎな植物だからです。

またわたくしは植物がすきだからです。

(二) イチジクを研究するにあたって

①家のうらに植えてある「イチジク」を毎日わすれないでかん
さつ する……午前中

②大切な時に みのがささないように、記録しておく

③かわったことがあれば、すぐメモしておく

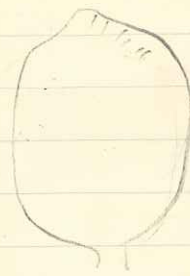
④おもに葉、花、実をよく観察する

⑤ わからないところがあったら図書館の本を~~を~~利用した

り、家の人から聞く

7月22日(木)

(2)



ミニがへこんでいる
赤い口のまわりが
め花
たね



イチジクの色は、きみどりの
上に、みどりにを、かぶせて見た
ような色

ふしぎなこと イチジクは、イチジクの葉を
おると、白いつゆがでる。なぜだろう

私は、図書館からかりてきた、植物のふしぎという本で
イチジクのことを見つけました。

イチジクは、かん字では、無花果^{むけりくわ}とかくのだ
が、これは、花がさかないのに、実がなる
ということからこういう字がつけられたのです。

私も、よくイチジクの花は、見たことがありません。

イチジクの木を見ると、あおいぼうずのような物が
ついています。じつは、これが、イチジクの花なのです。

ただ、外から見られないだけなのです。ですから、

私も、よくイチジクの花は、見たことがありませんというの
は、ちょっとまちがひになるわけです。

あおぼうずを、半分にわって見ると、中に、花らしい
物が、ありました。

2つにわって見ると、かわの下に、しろいにくが
ある。このにくの先に、やわらかい物があつた。

これが、ひとつひとつの花で、白いにくは、花のえい
あたる。そして、イチジクの実といつてたべるのは、め花

があつまっている台のところでは、

ふしぎなことの所を、本でもしらべましたが、
かいてありませんでした。

7月23日(金)

(3)



葉のうら



ただいましうで
ているイチジク

私が、きのうイチジクを観察した時におたえだの
白いつゆがすこしかたまってねはねはしたガムの
ようになっていた。そして、もう一度えだを、おって、
白いつゆを手のひらにのせたらなんだか、水に、なんが
しろいつぶつぶした物がまぜあっているみたいだった。
私は、これを、なめてみた。とてもにかがった。

手のひらをまげたりひらいたりすると、なんだかちょと
ねはねはしてきたようだ。

手をあらったら、白いつぶつぶが手のひらにのこった。
これのにおいは、イチジクのは、はのにおいと
おなじみだった。そして、この白いつゆは、時間が
たつにつれて、水のような物と白いつぶつぶとが、わか
れてくるようだ。

イチジクの葉をおってそのままにしておいてもあまり
は、はの先がくるりとならないので、イチジクの葉はいが
いとよい。

イチジクの葉、はの先は、7本。まん中に長い葉がひとつ
その右左に、2つ。あとは、こゆびとおやゆびめよう
な物が2つ。いちばん下に、小さい葉が2つ
イチジクの葉のうらとおもての色は、ちがう。

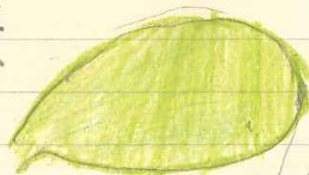
おもてがふかみどりのような色で、うらは、きみどりの
こいような色だ。

7月24日(土)

(4)



上から見たイチジク



よみから見たイチジク



めはな



私は、おとうさんに、イチジクのことについて、いい話を聞かせてもらいました。それは、イチジクの葉は、じにききイチジクの葉を、おれの中にいれるとよくあたまがすくわれます。で、イチジクの葉の先は、7本と書きましたが、イチジクの葉は、7まいのと5まいのとがあるのです。ですから、きくのう(うべた)のは、葉が7まいあったわけです。7まいといっても、いちばん下に、ちいさい葉がちょこんとあるので、7まいになるわけです。それに、イチジクの葉は、まだちょっとぐらいきり大きくなっていないみたいで、大きなたのめもまだわがらないふくよかっているのだ。

イチジクを2つにわったようす

色 色は白で 白

め花のようす 上の方がほつんとあながあいている。もうすこしたつとせみがめ花になるだろうか

7月26日(月)

(5)



私がこのあいだかりてきた(24日のこと)植物界のふしぎという本に、こんなことが書いてありました。それは、ふつうみんながイチジクの果(実)だとおもっているのは、ほんとうは、果じゃなくて、ふくれてながかうつろになっている花のふくろなのだそうです。花はそのうつろの内がわにあって、ほんとうの果(実)は、そのうつろのうしろの方にあって、ちょっと見ただけではわからないくらい小さいのだそうです。

イチジクの果(じつは花のふくろ)は、なまで食べられるほか、さとうでにつめるとジャムにもなり、かわがすとほしイチジクになり、またこの果をいって粉にすると、コーヒの代用にもなるそうです。なまのままたべると、のどのいたみがなおり、しょうがをたすけるそうです。それから、白いつゆをいぼにつけると、イボがとれるそうです。そして、イチジクの葉を便所にいれると、臭いどめになるそうです。私は、この本をよんで、イチジクに、まえよりもとっときょうみをもちました。

(16)

7月27日(火)



いましらべているイチジクは、あまり大きくなりないうた。
イチジクがなっている下の方からものさしではかってみたら
1cm 2mm ありました。



葉の小さい物 日にちがたつにつれて、

木がしらべている
のもこのような物
です。これよりも大き
けれど、



このような葉になる



←これは、葉のはの先。

木は、は、は、から、白いつゆがでるのかな？とおもって
は、は、をやぶいてみました。すこしただけど白いつゆは
でました。

7月28日(水)

(17)

また、イチジクの長さをしらべたら 1cm 3mm あっ
た。1mm だけのびたことになる。

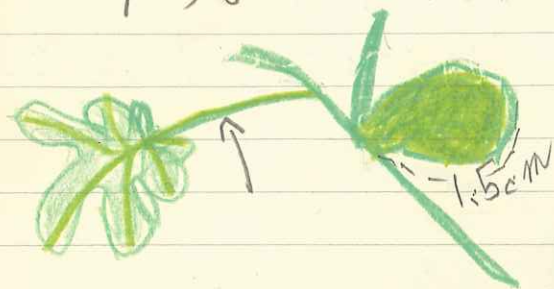


きょうは、おもしろいことをした。
それは、イチジクの葉のついている(やじる(の所)えだ
といった方がいいが、それを1回おると白いつゆがで
る。またその下でも上でもよいからそこをおると
白いつゆがでない。

木は考えた。でたらめかもしれないがこういう
ことだと思ふ。1回おると葉の全部のつゆがでて
もう1回おってみてもだめだ。それにふつうどいつも
おらないで、葉をちぎってみても、すこし白いつゆがでる。
1回おって、葉をちぎっても白いつゆはでない。
だから、木がおもっているのは、あながちまちがひでも
ないとおもう

7月29日(木)

(8)

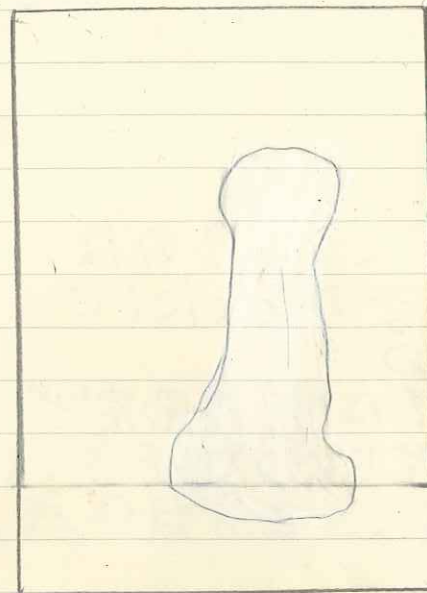


またイチジクの長さをはかった。
きょうは、1.5センチ
きのうよりも2ミリほど大きくなっている

イチジクの葉の戸所(やじるし)をおると、白いつゆ
がでる。2回めの時はでないがよく見ていると
ほろい糸のような物がはる。
それからイチジクの葉は、そのまましておくといくら
とまるくなる

7月30日(金)

(9)



28日にかラスにしりいつゆをしたのを見て見るともう
かたまってしまっていた。
手でさわって見るとぺたぺたする。
またイチジクの長さをしらべたら1.7センチあった
2ミリ大きくなった。目には見えないけれども
すこしずつ大きくなる。でもこれは夜にはかたの
で、夜と昼ではちがうかもしれないと思う。昼と夜
とではかってみたらどうちがうだろうか。それとも
ぜんぜんかわらないかもしれない。

8月3日(火)

2cm (10)

3,4日もイチジクをしらべなかった。
長さははみたら2.2センチだった。



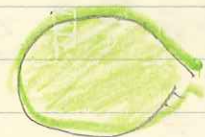
イチジクのえだのみき

ふつうのえだをおってもこういうのは

ないが1回おっ、ておいてそのままにして

おくところなるのだとおもう

そして、四年の時にかきの実をやったがなんだがイチ
ジクの実は大きくなるのがおそいようだ。



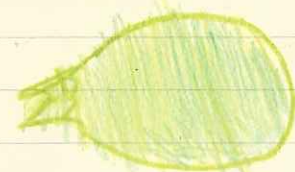
↑今しらべているイチジク



↑大きくなっているイチジク

8月7日(土)

(11)



イチジクの長さは3センチだった。
きのうも3センチだった。それからイチジクが大き
くなったのは8.5センチだった。



8月9日(月)

(12)



いままですくなくてふくらみもなかったが
このごろすくすくつふくらんできた。



←これはイチジクの白いつや
です。さわるとへたへた
します。

イチジクの葉とにている
物はアリデたぞうだ。

7月10日(水)

(13)



7月10日(水)

(14)



④



イチジクの実を二つにわってそのままにしておくと
外がわのふち(やいのしのとこ)がくる、とまかてしまう
ので、二つをつなぎあわせてもちゃんとした形に
ならない。このようになった。



上の④は、左のイチジクのめ花。
そしてめ花をとる時は、ふたつにわって
からめ花をすぐとるときよりとりに
くかったのでめ花の所にかわが
ある。

私は前に、イチジクの花は五まいとか
いたが五まいのもあり、つなげていて4まい
のもあった。

8月13日 (金)

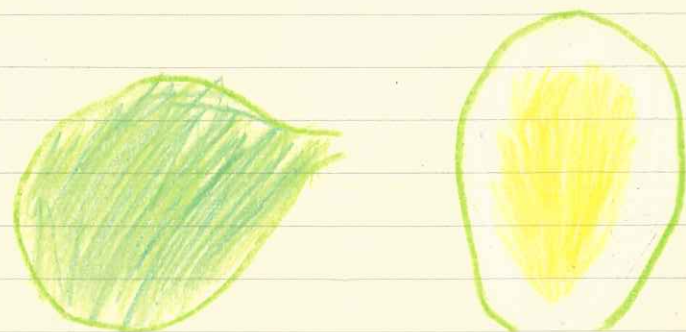
(15)



イチジクの葉の裏面を手でなでてみると
サラサラする。サラサラするのはいままできずが
なかった。
イチジクの葉のうらは、さまかい毛がたくさん
あつまっているのが、すこしさわりよい感じがす
る。

8月14日(土)

(16)



イチジクの長さは3.5cmだった。
イチジクの実をとる時白いつゆがでて手に
おちた。そして、2.3分後手の間にねばねばして
いるので石けんであらってもおちなかった。



な、とうのよう、
にほそい糸のよう
になる

8月16日(月)

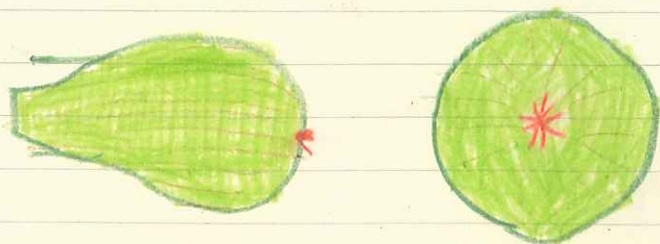
(18)



ベツに変わったことがないがイチジクの
実の所にちやいろのようなものが(やじる)で
てきた。(ベツになんともながたが)

8月22日(日)

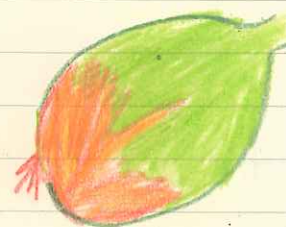
(19)



ベツに かわ、たどとが ないの。
イチジクのしんの尹所が まん中の方からすこし赤くなった。
イチジクの長さは、3.8センチだった。
外がかわがちょっぴり赤くなっている小さいイチジクを
半分にわってみたら、メ花の尹所の先の方がすこし赤味
がかった。

9月25日

(29)



イチジクの方からすこしずつ赤くなってきている。
いつになったらたべられるようになるか
いまからたのしみだ。

わたしは、おかあさんに、イチジクはどのように料理して食べられるかなとをきいてみました。

イチジクで料理したもの
イチジクのかんてん
イチジクの にともの
イチジクの あまに

イチジクのあまには、さとうをたくさんつかいます。とてもやわらかくなり、ふにゃふにゃです。



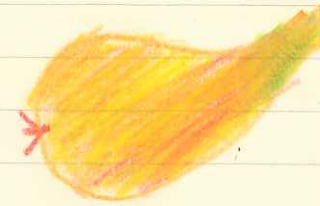
←こんな色をしています。

おかあさんに、このような色は、なんという

色なのか聞いてみたら(あめ色)というんだ

そうです。

9月30日



イチジクは、もう食べられるようになったが、下の方がちょっとかたい。
図書館の学習辞典という本に、イチジクは、じゅくすと外がわは、くろいむらさき色になる(もっとくわくわいてありました)が私はイチジクをたべてみました。さいしょはあまいがあとになると、にがいようなほろにがいようなあじがしました。

(14) まとめ

(23)

わかったこと

(1) イチジクは赤くなる時まん中(しんのある所)から赤くなること
がわかった。

(2) イチジクはまだ青ぼうずの時は、きみどりだが、実がじく
すと、くろっぽりむらさき色になる。

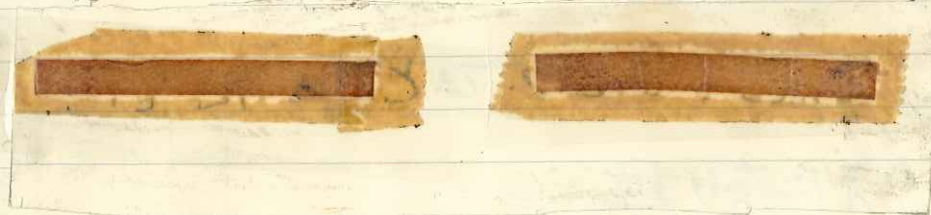
(3) イチジクは、だいたい2ヶ月ぐらいて、たやられるように
なる----- (すしザボったからわからなくなった)

(4) イチジクの白いつやは、にがい。

イチジクの白いつやは、酸性でした。

青いリトマス紙

赤いリトマス紙



上の(4)にあるように、イチジクの白いつやが、にがかった
のでわたしも酸性だと思いました。

理科の本に、にがいのほ、おもに酸性だとかいてあり
ました。

(24)

① イチジクは、おしべや花びらをたべる、くだものたそうです。

そしてイチジクは、さしきをして仲間をふやせるそうです。

はんせい 一番初めは、ページい、はかいいていたが、おわり

ごろになるとだんだん字の数もすくなくなったので

これからは、気をつけよう

イチジクのことを国語辞典でひいてみました。

イチジク

くわの仲間の木で庭にうえる

実の中に、そのようなめしべがたくさんある

↑
(26ページにもある)

ふしぎにおもったこと

イチジクの白いつやは、どんな所にたくさんあって、
どのようにして、白くなったりするのか

これからのこと

これから、このイチジクのことをもっとしべたり、人にきいたりして、敬学会としてではなく、自分の観察として、これからやっていきたい。

つけた本

植物のふしぎ、2巻

化学ブック

辞典 2巻

学習百科辞典 2巻

(25)

24ページに書くのをわすれてしまい、ここにききます

(26)

図書館にあった学習百科辞典にかいてあったこと
庭に植える果樹

わが国へは、徳川時代に中国からはいってきた。

春から夏にかけて、くぼみのような、した花托の内がわに
たくさんの小さな花がつくが外がわからは見えない。

イチジクを無花果と書くのはこのためである。

樹くすると、外がわは黒っぽいむらさき色になり、中は
うすく赤くやわらかで、まわりの白い花托の部分
とともにあまい。

かわのみどり色の品種と白イチジクという。

〔被子植物・双子葉類・クワ科〕

イチジク

果樹として植える落葉の広葉低木

高さ約3mに達し、5〜6月ごろ小さな花が

ふくろ状をした花托の内側にたくさん集まってさく

果が~~じゅ~~くすと外がわは黒むらさき色になる。

7月22日から

昭和40年